

輸出品目別レポート（サンマ）

■品目説明

サンマは北太平洋に広く生息し、季節によって広い範囲を回遊する魚である。日本では、秋のサンマの脂肪分が多く独特の風味があることから、塩焼きなどで親しまれており、「秋刀魚」と表記されるほど、秋の味覚として代表的な魚となっている。

現在、北太平洋のサンマは「[北太平洋漁業委員会](#)」による資源管理の対象になっており、各国・地域の漁獲量をもとに資源評価を行っている。サンマ資源量は 2000 年代中頃から減少傾向にあり、2020 年以降もわずかに増加しながらも低水準で推移している。この主な要因は、2010 年以降に発生したサンマの分布の沖合化によるものとされている。沖合化の背景には、親潮の弱化とそれに伴う海水温の上昇が考えられている。これにより、サンマの分布は生育場所や産卵場所も餌条件がよくない沖合に移動している。こうした中、北太平洋漁業委員会は、北太平洋の海洋生態系の保護と漁業資源の長期的な保存および持続可能な利用の確保を目的に、資源管理に取り組んでいる。

日本のサンマ漁獲量の大半は、指定漁業である「北太平洋さんま漁業」に基づき、棒受網漁法によって漁獲されている。この漁法は、主に日没から夜明けにかけて実施される。サンマは夜間に光へ集まる習性が強く、群れをなして海面の上層を回遊する。この習性を利用し、漁船は集魚灯を用いてサンマを誘導する。一度光に集まったサンマは、同一方向に旋回し始め、容易には離れない。この特性を活かし、漁船は集魚灯によってサンマの群れを棒受網へ誘導し、効率的に漁獲する。

2024 年現在では、日本のほか、ロシア、台湾、韓国、中国、バヌアツがサンマを漁獲しており、日本を含め、これらの国・地域も棒受網による漁獲が大部分を占める（詳細は、水産庁水産研究・教育機構「[令和 6 年度国際漁業資源の現況](#)」を参照）。

農林水産省「[令和 6 年漁業・養殖業生産統計](#)」によると、日本の 2023 年のサンマ漁獲量は、前年比 52.3%増の 3 万 9,300 トンとなった。北海道、岩手県、宮城県などの漁獲量が多い。

また、業界団体として、「[全国さんま棒受網漁業協同組合](#)」や[一般社団法人大日本水産会](#)などがあり、[水産物・水産加工品輸出拡大協議会](#)が積極的に日本産水産物のプロモーション活動や海外・国内における輸出商談への支援などを実施している。

■貿易概況

日本の 2023 年のサンマ輸出額は前年比 27.9%減の 169 万ドル、数量ベースでは同 7.7%減の 612 トンとなった。主要輸出相手国別にみると、1 位のベトナム向けが前年比 168.3%増の 90 万ドル（シェア 53.4%）となった。2 位はタイ向けで前年比 47.9%増の 62 万ドル（同 36.5%）、3 位がロシア向けで同 30.3%減の 11 万ドル（6.5%）であった。

また、2024 年度のサンマ輸出額は、4 億 3500 万円（前年比 87.0%増）となった（出所：[農林水産省「令和 7 年（2024 年）農林水産物・食品の輸出額」](#)）。

▼表1：日本のサンマ輸出

（単位：ドル、トン、％）

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ベトナム	922,141	246	338,215	123	907,279	332	168.3	169.9
タイ	2,632,996	1,085	419,938	125	620,938	226	47.9	80.8
ロシア	1,311,176	691	158,454	85	110,374	48	△ 30.3	△ 43.5
米国	168,445	19	82,696	9	25,085	3	△ 69.7	△ 66.7
香港	25,225	3	31,683	3	19,484	2	△ 38.5	△ 33.3
全世界	5,851,466	2,296	2,354,330	663	1,697,696	612	△ 27.9	△ 7.7

注：対象はHSコード 0303.59-010

出所：Global Trade Atlas（IHS Markit）より作成

■海外事情

●ベトナム

日本側の統計をみると、2023 年のベトナム向けのサンマ輸出額は前年比 168.3%増の 90 万ドル、数量ベースでは同 169.9%増の 332 トンであり、金額と数量ともに輸出相手国の中で首位となった。

日本有数のサンマ水揚げ地である北海道根室市は、2010 年に高い鮮度と品質を誇る根室産サンマの輸出拡大を目的とした「[根室産サンマ輸出プロジェクト](#)」を設立した。このプロジェクトでは、ジェトロ北海道などと連携し、海外バイヤーの招へいや販売促進活動などを通じて、ベトナム向け輸出の拡大に取り組んできた。

・ジェトロ「[ホーチミンで日本産水産物の商談会実施、調理法や料理例も紹介\(ベトナム、日本\)](#)」（2024 年 2 月）

●タイ

日本側の統計をみると、2023 年のタイ向けのサンマ輸出額は前年比 47.9%増の 62 万ドル、数量ベースでは同 80.8%増の 226 トンであり、金額と数量ともに輸出相手国の中で 2 位となった。

これまでに千葉県では、「タイにおける県産水産物の輸出促進活動」の一環として、現地のレストラン関係者を対象に、サンマ加工品（サンマ開き、サンマ開きしょうゆ干し）などのプロモーション活動を行っていた。

・ジェトロ「[世界は今 常夏の国に日本の“サカナ”を！ タイで広がる“鮮魚需要”に商機\(2024 年 2 月\)](#)」

・ジェトロ「[品目別セミナー タイにおける水産物市場の現状と輸出のポイント\(2025 年 1 月\)](#)」

●ロシア

日本側の統計をみると、2023 年のロシア向けのサンマ輸出額は前年比 30.3%減の 11 万ドル、数量ベースでは同 43.5%減の 48 トンであり、金額と数量ともに輸出相手国の中で 3 位となった。

[国立研究開発法人水産研究・教育機構](#)によると、ロシアにおけるサンマの利用は、主に缶詰などの加工原料向け用途が中心であると言及している。また、ロシアは旧ソ連時代の 1960 年代から本格的にサンマの漁獲を始めており、近年では台湾などの漁業技術の影響を受けた棒受網漁法を用いた漁獲も行っている。

●その他

・ジェトロ香港 PF「[香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（水産物）](#)（2024 年 11 月）」

・水産物・水産加工品輸出拡大協議会「[H28 年度水産物・水産加工品の輸出拡大に向けた海外マーケット調査](#)」（上海、香港、深セン、メキシコ、2017 年 3 月）

そのほか、同協議会の[海外マーケット調査レポート資料](#)のページを参照。

ジェトロ特設ページ「[ALPS 処理水の処分に伴う輸出等の対策に関する特別相談窓口および各国・地域の動向について](#)」では、各国・地域の動向について幅広い情報提供を行っている。

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、サンマの主要都市における市場価格をまとめている。

また、サンマを含む水産物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、ミャンマー、UAE、サウジアラビア、米国、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、EU、英国、ロシアをまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル

TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。